

# 第1回鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画 策定委員会（会議録）

○日 時 : 令和5年7月11日（火）10時00分～11時55分

○場 所 : 鶴岡市役所 別棟2号館 21・22・23号会議室

○出席委員 : 上野 雅史 委員、阿部 真一 委員、廣瀬 大治 委員、國井 英夫 委員、  
ミヨ サラ ラッシュェル 委員、佐藤 菜々子 委員、岡部 浩美 委員、  
本間 豊 委員、五十嵐 久廣 委員、鈴木 小枝 委員

○欠席委員 : 尾川 勝則 委員、鈴木 俊将 委員、三浦 明弓 委員

○オブザーバー :

経済産業省東北経済産業局産業部商業・流通サービス産業課長 成田 早霧 氏  
国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課長 大泉 隆是 氏  
独立行政法人中小企業基盤整備機構高度化事業部まちづくり推進室長 林 伸次 氏  
（代理出席）中心市街地サポートアドバイザー 伊藤 大海 氏  
独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部長 鈴木 孝弘 氏  
（オンライン参加）

○アドバイザー : 早稲田大学 教授 矢口 哲也 氏（オンライン参加）

○事務局 : 市長、鶴岡商工会議所専務理事、商工観光部長、建設部長、教育部長、  
企画部政策企画課長、企画部地域振興課長、商工観光部商工課長、商工  
観光部商工課商工企画主幹、建設部都市計画課長、教育委員会参事（兼）  
管理課長、教育委員会社会教育課長、鶴岡商工会議所経営支援課長、鶴  
岡商工会議所総務企画課企画係長、鶴岡商工会議所経営支援課経営指導  
員、商工観光部商工課中小企業振興主査、商工観光部商工課主任（企業  
振興班）、建設部都市計画課管理主査、建設部都市計画課都市計画係長、  
建設部都市計画課都市計画専門員、建設部都市計画課専門員（都市計画  
係）、建設部都市計画課主事（都市計画係）

○公開非公開 : 公開

○傍聴者 : 7名

○次 第

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 挨 拶
4. 委員長選出
5. 協 議
  - (1) 中心市街地将来ビジョン骨子（案）について
  - (2) 意見交換

6. その他
7. 閉会

#### <会議概要>

1. 開会
2. 委嘱状交付

- ・机上にて委嘱状交付

3. 挨拶

#### 《市長》

- ・第1回策定委員会にご出席いただき感謝申し上げます。本委員会は、本市中心市街地における今後のまちづくりの方針をご協議いただき、将来ビジョンの策定と、そのアクションプランとなる中心市街地活性化基本計画に係る事項をご協議いただくものとなる。
- ・本市中心市街地は、酒井家庄内入部400年の歴史を持つ、歴史の薫る城下町である。また、150haの広さを持ち、公共施設や金融機関等の都市機能の集積が図られるとともに、鶴岡駅や11の商店街があり、市全体の発展を牽引するエリアとなっている。
- ・これまで第1期、第2期の中心市街地基本計画を策定し各種施策に取り組んできたが、一方で、他の地域と同様に人口減少や老朽化する公共施設の再整備、空き家・空き店舗の増加など様々な問題、課題を抱えている。こうした問題を解決するためには、中心市街地のありたいまちの将来の姿を、市民、事業者、行政が共通認識を持って課題解決に取り組むことが必要と考え、昨年度から市と商工会議所で検討会議を立ち上げ、これまで検討してきた。
- ・将来ビジョンでは、総合計画の分野別の内容、いわば点を中心市街地の面へと落とし込み、ありたいまちの将来の姿を具体的に整理し、課題解決の方向性を定めていきたい。
- ・本日は、ビジョンの骨子として、中心市街地のありたいまちの姿、まちづくりの方針、問題や課題について事務局で整理した内容を説明する。委員の皆さまからは、活発なご議論と忌憚のないご意見を頂戴したい。

(商工観光部商工課長により委員、オブザーバー、アドバイザーの紹介)

4. 委員長選出

- ・委員長に上野雅史委員を選出

#### 《委員長》

- ・中心市街地活性化に向けたビジョンの策定から第三期中心市街地活性化基本計画の策定まで、6回ほどの会議を予定している。

- ・人口減少、少子高齢化、空き家空き店舗の増加は非常に深刻な問題となっており、この流れを止めることはなかなか難しいものの、状況の悪化を少しでも遅らせることができればと考えている。若者がぜひ鶴岡に住みたいと思いうまちづくりを目指してご意見を頂ければありがたい。
- ・今年度はまず中心市街地将来ビジョンを策定することになるが、引き続き来年度の第三期中心市街地活性化基本計画の策定に向けて、ご意見等を頂戴したい。

## 5. 協 議

議長：委員長

### (1) 中心市街地将来ビジョン骨子（案）について

《委員長》

- ・中心市街地将来ビジョン骨子（案）について、事務局より説明いただく。

《事務局》

… 資料についての説明 …

《委員長》

- ・質問があればいただきたい。（質問なし）
- ・都度なにかあればご発言いただきたい。

### (2) 意見交換

《委員①》

- ・鶴岡市開発公社では、鶴岡市の施設の指定管理者として、加茂水族館、文化会館、アートフォーラムなどを管理運営している。市街地の中に必要と考えられる芸術施設として、文化会館、アートフォーラムがまさに中心市街地に整備されているが、もうひとつ欲しいものとして、市街地に加茂水族館のような高校生がわくわくできるような機能も必要ではないかと考えている。
- ・まちづくりは一朝一夕でできるのではなく、歴史があって作られてきたもの。昨年は酒井家庄内入部400年という節目の年だったが、城下町として、歴史を活かしたまちづくりが必要。
- ・一方で、わくわくどきどき、ということでは、鶴岡駅という人が行き交う場があるため、その特性を生かし、まちの中心と結びつくような施設が必要と考える。

《委員②》

- ・ランド・バンクでは、市街地の空き家問題に取り組んでいる。実際に空き家は毎年300棟ずつ増えており、その要因として考えられるのは、一つ目は解体に係る処理能力が追い付いていないということ。二つ目がどうしたいかわからない方がいること。
- ・空き家相談会を年3回行っているが、年間80件程度の相談がある。また、壊したくても壊せない空き家、例えば認知症の方が持ち主であり、施設に入っているだけ

で、売りに売れないケースもある。また、売りに出しても道路が狭い建物や土地はおそらく買う人がいない。

- ・まず、道路の状況を改善するのが重要なのではないかと考える。都市機能誘導区域内でも非常に狭い道路が多くある。空き家問題の対策は道路状況の改善とセットで行っていく必要があるのではないかと考える。補助金のメニューとして狭小の隣地の購入に対する補助といったものもあるが、解体についてはアメとムチといった形の支援・対策があってもよいのではないかと考える。
- ・私としては、機能というよりは住みやすさを重要視している。どういったまちになったら住みやすいのか。
- ・私はまだ若い世代と言えるかもしれないが、中心市街地エリアには含まれていない図書館のヘビーユーザーである。この図書館も老朽化や駐車場の狭さなど、そろそろどうにかしてほしい。他の地域では高校生のフリースペースが図書館とセットになっていたり、図書館内にカフェが併設されていたりする。
- ・観光のときに休める場所が無いという問題については、食事をする場所が無いとも言えるので、例えば図書館を中心市街地の中に収めれば、観光拠点にもなるし、食事ができる場にもなり、様々な問題を解決することになるのではないかと考える。

#### 《委員③》

- ・公共交通ということでは、昨年10月に市と協議しながら、市内循環バスを以前に比べ便数を4倍にした。利用者は月を追うごとに増加傾向にあり、導入前より3.5倍増加している。土日の運行も以前までは休止していたが、土日こそまちの中に出ていただき、消費活動を行ってもらおうということで土日運行も開始した。中心市街地の活性化という点では、公共交通のインフラはある程度整備したと考えている。新たな路線も整備し、住宅街の狭い道も通れるバスということで12人乗りの小型バスにしている。バス利用をどのようにしていくかという視点も含め、皆さんに考えていただきたいと思っている。
- ・中心商店街の皆さんはマーケットを明確にしていくべきではないだろうか。商店街がどのような機能を持つべきかを考えることや、大型のショッピングセンターと変わらない品を扱う店舗経営の是非について検討されたほうがよい。S-MALLは、市民の皆さんに関心を持ってもらえるものを取扱うように努めている。
- ・商店街ではインバウンド対応はどうなっているのだろうか。鶴岡は出羽三山など観光できる場所がある。海外から来ていただくための努力・誘客をしていかないといけないのではないかと考える。出羽三山の精神文化についてもPRが不足している。出羽三山信仰、即身仏信仰、まち歩きなど観光資源は多くある。
- ・岩手県盛岡市は外国人観光客に大変人気だが、城下町、和洋折衷の建築物、その保存状態が良いといった点では鶴岡は似ている。観光のための足としてもバスを利用いただきたい。そのため、ターゲットをまちあるきの人として、その人に対しての店づくりを行うなど、明確に求めたほうがよいのではないかと考える。
- ・今まではインバウンドに対応する業者が地域にはなかった。そのため、鶴岡市では観光DMOのDEGAM鶴岡ツーリズムビューローを立ち上げ、ようやく少しずつ整ってきたところ。
- ・これまでは大手旅館等が誘客のためインバウンド業者のような役割を担っていたが、あくまで宿泊をしていただくためのインバウンド対応までに留まっており、その先に繋がってなかった。鶴岡にお越しいただいた方に対し、地元の魅力を感じられる、地域資源の活用についてもビジョンのようなものが打ち出されていなかった。

た。インバウンド観光の受入れについては、要素は多くあり、着手もしやすいため、専門家の知見を得たうえで対応してほしい。商店街にも良い効果があるはず。

#### 《委員④》

- ・旅行商品として強いコンテンツは、出羽三山と加茂水族館。温泉地も最近は魅力的で強いコンテンツになってきてはいるが、総じて市外のエリアのもの。ただ、インバウンドで言えば、強いコンテンツ・エリアは東北全てと言ってもいい。
- ・鶴岡の中心エリアに関しては、多くの魅力的な資源がバラバラにあってそれをつなぐのが難しいという課題がある。丙申堂、北前船、致道館、致道博物館といった歴史・文化を感じられる観光施設全てを巡るのに苦勞をしそう。レンタカーなど車があればそういった問題は解決するが、公共交通に依存するインバウンド観光客にはどうしてもアクセスの問題があり、アクセスの問題があると旅行商品は売りにくくなる。
- ・国内の観光客向けの旅行商品も企画・販売をしているが、ニーズはインバウンド向けと国内向けでそう変わりはない。インバウンド誘客としては外国語対応が必要ではあるが、鶴岡のコンテンツはどの観光客に対しても喜ばれるものと考ええる。しかし、商談会では鶴岡のコンテンツは素晴らしいと評価されるものの反応が芳しくなく、なかなか市街地のツアーは団体ツアー会社に扱ってもらえない。
- ・以前、フランスのインバウンドの専門家を招聘した際に、アーケードの老朽化の指摘を受けた。きれいな城下町に来たのに寂れた雰囲気、老朽化で傷んだアーケードの一部が落下する危険もあると心配された。また、外国人が着物を着て、鶴岡のまち歩きをする旅行商品を作ったが、せっかくきれいな着物を着たにも関わらず、写真映えもなく、歩くまちが汚くはない評価を得にくい。アーケードは大掛かりには言わないが、簡単な補修・修繕はできるのではないかと。魅力づくりとしてはすぐに対応できそうに思える。
- ・すでに日本の文化が大好きなインバウンド客であれば問題なく喜んでもらえると思うが、日本の文化に詳しくない普通のインバウンド客に鶴岡のまちを歩いてもらったところ、何も無い印象とのことだった。英語のサインが無いのでこの場所がどんなところか、展示品がどんなものなのかがわからないとのこと。QRコードや英語サインを置くだけでも魅力がアップし、インバウンドで喜んでもらえる。魅力ある対策を整えていただきたい。

#### 《委員⑤》

- ・ANA SHONAI BLUE Ambassador として庄内地域で活動している。その中でありがたいことに、観光に繋がるお仕事をいただくこともあるが、その中でいくつか感じたことがある。
- ・まず、雨の日に観光をどうするか。庄内の観光資源は多数あるが、雨が降ってしまったらどこに行くのか、ということになってしまう。加茂水族館に行ったあと、次はどこに行こう、どうしよう、となってしまう。というのも、鶴岡のまちへ行く発想があまり無いからかもしれない。
- ・原因を考えたときに、先ほど魅力的なコンテンツが中心地に点在しているというお話があったが、観光の隙間時間をどう使うかのイメージが湧きにくいこともあるのかもしれない。観光の目的地以外に、朝やカフェタイムに滞在できる場所があるのか、ちょっとした時間に観覧できる施設があるのか、そういった情報が少ない。
- ・また、中心部は一方通行や狭い道路も多い。交通ルールも難しく、道に迷うことも

あり中心部にはなかなか足を踏み入れづらいイメージがあると感じている。地域に合った、車以外の交通手段もあるといいのかもしれない。

- ・私は山形市出身で、アンバサダーになるまで庄内に来ることがなかった。内陸の方はあまり庄内に来ないし、その逆も然りと思う。最近はインスタグラムなどのSNSにより、元気な個人のアカウントが有名になる時代。元気な城下町を引っ張っていく商業振興策が必要と考える。元気な個店はまちなかに行く目的となり得る。
- ・同世代の鶴岡の若者に話を聞くと、行くところが無いと言う。出かける場所があれば外へ出る目的となるのではないか。若者の賑わいがまちの発展には不可欠と考える。
- ・鶴岡市の事業で「鶴岡ミライ会議」というものを8月に企画しており、一度鶴岡市を出た若者が鶴岡を再発見するプログラムとなっている。私は山形市を出てから、山形市を自分が住む町として見るができなかった。そのため山形市の生活サービスがどのようなものかわからず、親に育てられていた時期までの山形市しか知らず、自分が暮らし、子育てをするまちとして山形市を見たことがなかった。鶴岡ミライ会議に参加される若者も同じだと思っており、自分が主体的に住む町として鶴岡の魅力を発信していく、そういう層の意見を収集していくことも重要と考える。

#### 《委員⑥》

- ・インバウンド向けの通訳ガイド、受入れのコンサルティング業務を行っている。インバウンドの視点からの話をさせていただくが、庄内は観光の宝庫で、ポテンシャルを感じる。特に海外から来られる方は、私たちの日常生活そのものが目新しい。例えば田んぼを見て、年に何回収穫できるのか、そんなところから質問される。四季を通じた稲の成長とストーリーを伝えるとそれだけで十分で、さらに水がおいしいからお米がおいしい、おいしいお酒もあるのだと、そこにあるものにちょっとしたストーリーを加えて説明すると、海外の方は感銘を受けてくれる。
- ・インバウンド観光客は、私たちが見逃してしまうことに対しても着目してくれる。4月に酒田港にクルーズ船が訪れた際も、伝統工芸である「御殿まり」の評判が良かった。海外の方はご当地のクリスマスオーナメントを買う方が結構いるので、ツリーに付けてもいいと伝えると、どんどん購入してくれる。私たちが当たり前だと思っているものに対し、新しい視点を作ってくれるのがインバウンド観光客。今まで以上に丁寧に対応することでその魅力も高まっていく。
- ・シルクについても、鶴岡のシルクの一貫工程や歴史的なストーリーは喜ばれるし、非常に良い観光コンテンツである。出羽三山、即身仏は言うまでもないし、刺し子も注目を集めている。身近なものを丁寧に発信していくことで、海外の人に新たな魅力を見つけてもらえるのではないかと。
- ・ハード面の課題である建物の老朽化は、今すぐどうこうできるものでないと思う。歴史のあるものは建て替えより残したほうが良いものもある。丙申堂のひな祭りでの体験モノは感銘を受けていただけただけのことからも、古さを補うようなソフト面でのコンテンツが重要。例えば、お雛様の展示だけではなくその歴史の説明や、和菓子作り体験でも、和菓子の形がなぜ柿なのか、鯛なのか、それを説明するだけでも良い。甲冑隊も観光コンテンツとして良いのではないかと。
- ・以前観光庁の事業でインバウンド受け入れのセミナーをやらせていただいたが、参加された方が、言葉が通じなくて自信が無いといった問題があった。せっかく良いコンテンツを持っていても言葉が通じないから、自信がないからできない、ということではもったいない。言葉に限らずとも気持ちを伝えることはできるので、鶴岡

市の観光業界に関わる方が自信をもって、また来てもらえるまちづくりをしていければ良いと考える。

- ・若い世代が県外に刺激・経験を求めて出ていくことは止められないと考えている。私も23年間は県外に住んでいた。どんどん広い世界を見て、知識や経験を身に付けて、その後に、鶴岡市が戻ってもいい、暮らしてもいいなと思うまちであってほしい。そのためには住んでいる大人がいきいきと毎日を過ごせているかが重要。
- ・人口減少は日本全国どこでも問題となっており、遑って子どもを増やすことはできない。減っていくことを前提とし、ではどうやって交流人口を増やすのか、観光客や若者が帰ってきたいと思えるように、まちづくりという観点から考えていければよいと思う。
- ・最近新しい店舗ができたとしてもチェーン店やドラッグストアなどが多い。日本中どこでも同じような店がある状況で味気ない。若い方や高校生は、少し前までは鶴岡にはスターバックスがないと嘆いていたが、実際にきてそれが鶴岡の魅力になるのかと問われれば、そうではない。世界中にあるスターバックスとは異なり、コトを売る商売、ここにしかないコンテンツを地元の方が自ら商店街、中心市街地に作り出せる仕組みがあればよいと考える。

#### 《委員⑦》

- ・致道博物館は、バブル時代は毎年15万人程度の来場者を誇ったが、バブル崩壊以降、徐々に入館者が減ってきた。平成30年頃には入館者は5万人程度まで減ってきており、人員も増やせない状況だった。
- ・この頃に刀剣乱舞というゲームが流行し、他の博物館では、保管していた刀剣がキャラクターになりその展示をしたところ、長蛇の列になるほどお客様が来たという。そこで、同様の展示を致道博物館で行ったところ、個人のお客様が数多く来てくれた。以前までは団体客がバスで来るのが一般的だったが、この企画のおかげで個人のお客様が数多く訪問してくれた。ブームは落ち着いたものの、刀剣の展示会をするとお客様は引き続き来て下さる。昔は社員旅行などで旅行会社がお客さん連れて来てくれていたが、この刀剣乱舞のブームは、目的が明確な旅行者が多く来てくれた形。ゲームブームがありながらも、来場者の半分程度は本物の刀剣を見たいという層で、ここがリピーターになっている。リピーターというのは今までなかったことであり、非常に驚いている。刀剣は世界的にも美術品として扱われており、アメリカでは規模も大きくなってきていると聞く。
- ・展示会を開催した際に、博物館周辺とのタッグ・コラボなどをやっていきたいと考えている。昨年酒井家庄内入部400年記念の展示会は、周辺の食堂、お菓子屋さんなどに協力を求めて、致道博物館でカードを配るなどを行い、盛り上がりがあった。
- ・中心市街地で食事・休憩スペースが無いと来場者にもよく言われる。致道博物館にも併設されているが、文化庁や文化財との兼ね合いで昼のみの営業となっている。来場者は展示物や観光施設を見た後、ゆっくり休憩できる場所を求めているのではないか。近くにあった店舗はコロナで撤退してしまった。休憩・一服できるのが自動販売機の飲み物だけではサービス面では劣っており、切なくも感じる。周辺に休憩・飲食スペースが増えていけば、観光施設側としては非常に案内しやすい。
- ・5年前に長井市で文化財関係の講演を行った際、文化財を引き継ぐ人がおらずどうすればよいかと尋ねられたが回答することができなかった。こういった点に対応できるよう歴史・文化に関しての教育も小学生の頃から必要と考える。

#### 《委員⑧》

- ・委員の皆様からのお話で、課題も見えてきているように思える。資料3の現状分析では、2030年度には中心市街地の人口が5万人を切ってしまう推計だが、これは正にそうになっていくように思える。中心市街地にとにかく集約させるということはやっていく必要はある。
- ・11の商店街があるということだったが、今後の支援については思い切った決断も必要。また、人口減少を何で補うかといえばインバウンド等の交流人口になると考える。それに対しての課題もすでに委員から提示されているものもある。
- ・道路や河川、砂防などはある程度本市でも整備されているが、先日の九州・中国地方での豪雨被害では、これで問題ないだろうと整備したインフラが被害を受けたという現状がある。線状降水帯などはここ近年でよく聞く用語になってきたが、これまでとは同様の対応で問題ないだろうとは思わず、中心市街地近辺の内川、赤川の整備もしっかりしていかないといけないのではないかな。
- ・先に委員が話されたアーケードの問題については、簡単にはいかないと思うが、将来的に撤去して、商店街も新しいまちにしていく発想が必要なのではないかな。老朽化した建物の問題については民間ではなかなか整理できず、対応できかねるところもあるため、公共的に処分することも含め、どうするのか検討したほうが良いのではないかな。

#### 《委員⑨》

- ・商店街は、歩いていてもシャッター街となっており、アーケードも老朽化が深刻だ。
- ・若い方が開業する際に活用できるチャレンジショップ事業があるが、中心市街地で開業する際の補助などあれば、若者が開業しやすいと考える。
- ・一般住宅については、つるおかランド・バンクの空き物件を購入し、新たに建てる提案も可能ではあるが、中心市街地にあるような建物だとそういった案件もない。なぜかという、道路が狭く、形状が悪いということでなかなか手が出ないのが現実であり、郊外の空き家のほうが割高であっても手が出しやすい。資金力が不足している方でも、中心市街地は周辺環境のこともあり二の足を踏むように感じる。空き家活用をもっとやっていければと思う。

#### 《オブザーバー①》

- ・これまでの中心市街地活性化基本計画の中でも、様々な事業で市の中心市街地活性化に取り組んでいることは把握している。今回のビジョン骨子にもあるような、生きがい創出・ケア対策やその空間整備、さらには商店街やまちを引っ張っていく人材を確保することなど様々な検討されていらっしゃるが、委員からのご意見のとおり、商店街や個店の特色をしっかりと出していくのが重要であると、委員の皆様のお話を聞いて感じたところ。

#### 《オブザーバー②》

- ・委員のお話にあった空き家問題については、国でも補助がある。空き家の活用を検討するための補助、改修、リフォーム、解体をするための補助もあるので、鶴岡市ともご相談の上、活用いただきたい。
- ・国交省で交通事業者と交通結節点の整備に対する補助メニューもある。こちらについても鶴岡市と相談の上、活用を検討いただきたい。



#### 《オブザーバー③》

- ・中小企業に対する専門家の立場として鶴岡に10年以上前から時々訪問しているが、今日銀座通りを見て率直に寂れていると感じた。一般的な話になってしまうが、まちに対し、これからどういう風に暮らしていきたいのかというライフスタイルが見えるようなものがなく、期待感を持てるものがない。このまちにいたらこういう暮らしができるのだと、例えば高校生が県外に出たときに戻ってきたいと思えるようなライフスタイルの環境が見えない。あるいはそういった環境がないということは、事業環境も非常に大きく影響しているのではないか。事業環境が整っていなければ、個店はよほど強いところでない限りやっていけない。今年度、商店街で社会実験を行うとのことで、もっと大胆でもいいので、道路を広く緑化し広場にしたり、その周辺で働ける場を作ったり、高校生の居場所になれる場を作るといったことや、そこに住宅をつくり、鶴岡でもこういった暮らしができるのだと見せると良いのではないか。
- ・以前、鶴岡と似た城下町でタウンマネージャーを務めていた際に、地域の方は風情のあるまちと評していたが、私から見ると手入れされていないまちだった。中にいる人と外から見た人では反応が違う。古いものを活用するには手入れしていかないといけない。もうひとつ言えば、今後会社設立などの検討もあるようなので、銀座通り等の社会実験を絡めて、これからのことを考えて対応いただきたい。中小機構のセミナー、アドバイザー派遣などはお気軽にご相談いただければと思う。

#### 《オブザーバー④》

- ・委員の皆様から現状をお話いただき、特に観光関係のコンテンツがあり、今後のことを考えているという印象を持った。
- ・様々な地方都市の都市再生に携わらせていただいている中で、建物を建て、道路を作るなどハード整備を中心に仕事を行ってきたが、やはり都市の再生に関しては観光を含めた様々な産業を多角的に考えてまちづくりを行い、お金を循環していく視点が重要だということを実感している。今後鶴岡に訪問した際に、まちにどのような魅力があり、どういった方面を目指していくのか注目していきたい。

#### 《アドバイザー》

- ・様々な意見が出た上でまとめの話をさせていただくが、本日の委員のご意見をお聞きして、聞けば聞くほど、鶴岡の今ある資源、鶴岡らしさを活用していかに人を呼ぶか、外から出た人に戻ってもらうのか、どういった人を呼ぶのか、そういう施策をきちんと打っておかないといけないのだということを感じた。今後人口減少社会の中で、各地方都市が同様のことで危機感を覚えているが、鶴岡でも同じく対応が必要で、そういう施策を打っていかないといけないという考えが根底にはつながっていたのだと考える。
- ・やはり皆さん危機感を持っていて、今のままではおそらくだめなのだろうと認識されている。例えば商店街がこのままの状況で生き残るかと言えば、そうではないのだと発言の中にも出ており、皆さん何となく同じ考えを持ったのではないか。
- ・本日良かったと思えたこととしては、皆さんが将来どんな人に来てもらいたいかという、ソフトとハードに加えて人について意見を述べられているところ。
- ・ここからは私の意見になるが、人について話すのであれば、今までは想定していなかった人などを考えるのはどうか。こういう人たちが鶴岡に関わるのではというのを想定しても良いのかもしれない。

- ・例えば、現状であれば、空き家・空き店舗については、人は減るが建物はなかなか減らない。それを活かすにはどのような住まい方がいいのか。どのように住んでくれるのか、新たな人を考えてみるのもいいのかもしれない。インバウンドにしても、初めて呼ぶ人というより、長期滞在やリピーターの方を考えるなど新たな視点を持ってきてもいいと思えるし、市内の他地域に住む方が、2拠点3拠点居住するために中心市街地を利用するといったことも考えてもいいように思える。
- ・最後にオブザーバーからライフスタイルを考えるという意見があったが、人を考えることと併せてどのような住まい方ができるのか、どんな使い方があるのか、ライフスタイルも併せて考えると議論が深まるのではないかと考えた。

#### 《委員長》

- ・それぞれの立場で様々なご意見があるため、今後もう少し議論を深めていきたい。市民・事業者・行政が共通認識を持ったうえでのまちづくりのビジョンが必要になってくる。合意形成をしたうえで、鶴岡のまちづくりのために新しい計画を作っていきたい。最後に皆川市長よりお話いただきたい。

#### 《市長》

- ・アドバイザーからまとめをいただいたところであるが、中心市街地の現状を考えると、一部更新されているところがあるものの投資が不足していたり、空き家の活用が難しくなっている実態がある。これに対し、誰がその投資を担っていくのかを考えることになると思う。通常このような会議では市が事務局を担うが、商工会議所と連携して事務局を行っているのも、そのようなことを含め、きちんと検討する必要があるからと考えている。
- ・中心市街地エリアは150haあり、オブザーバーのご発言にもあったが、ライフスタイルを考え、今後の投資をどこから着手していくのかということが大変重要であると考えている。
- ・ライフスタイルについては、生活面・学校面などそのくくり方は様々ある。観光の話もあったが、歴史的な街並みもあり、芸術を楽しみたいニーズもある。生活、住居、様々なライフスタイルのシーンに合わせて、ウォンツに対応した提案を行政が担える部分として対応していくことが重要。国の補助もあるが、市として必要な予算、提案を行い、中心市街地再生に向けて取り組んでいきたい。

#### 《委員長》

- ・以上をもって、本日の協議を終了させていただく。

進行：事務局へ

## 6. その他

#### 《委員①》

- ・策定委員会については残り2回の会議となってしまいが、どのように集約していくか事務局でもう少し提示する必要があると考える。例えば、領域ごとに深めていくためにはどのように対応すべきか、アドバイザーと議論しながら検討いただきたい。

○情報提供  
《オブザーバー》 経済産業省事業について情報提供  
《事務局》 社会実験についての情報提供

7. 閉会

以上